2024 年 11 月 13 日

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター
革新的自殺研究推進プログラム
自殺対策推進レアール（令和 5 年度委託研究中間・最終成果報告会）
参加者アンケート結果

【ポイント】

●自殺対策推進レアールの満足度は、「やや満足」「満足」を合わせると、全体（領域 1～3 の延べ）で、97.6%となった。領域別には、領域 1：94.9%、領域 2：98.5%、領域 3：100.0%となった。

●研究課題について 16 課題それぞれの評価を見ると、参考になったという回答(「大変参考になった」「やや参考になった」)が 87.9%~96.7%にのぼり、どの課題についても高評価だった。

●自殺対策推進レアールへの意見としては、研究で得られたデータやエビデンス等を実際に活用することについての意見や、自殺対策のために異業種間での協力体制を築くことに関する意見が寄せられた。

1．自殺対策推進レアールの開催とアンケート実施（図表 1）

「革新的自殺研究推進プログラム自殺対策推進レアール(令和 5 年度委託研究中間･最終成果報告会)」をオンラインで開催し、地方自治体職員の方を中心に 3 日間で延べ 650 人の参加があった。アンケートは 3 つの領域ごとに行った。全体（領域 1～3 の延べ）では 327 件(50.3%)の回答があった。領域別には、領域 1：117 件(40.5%)、領域 2：137 件(57.1%)、領域 3：73 件(48.7%)の回答があった（図表 1)。

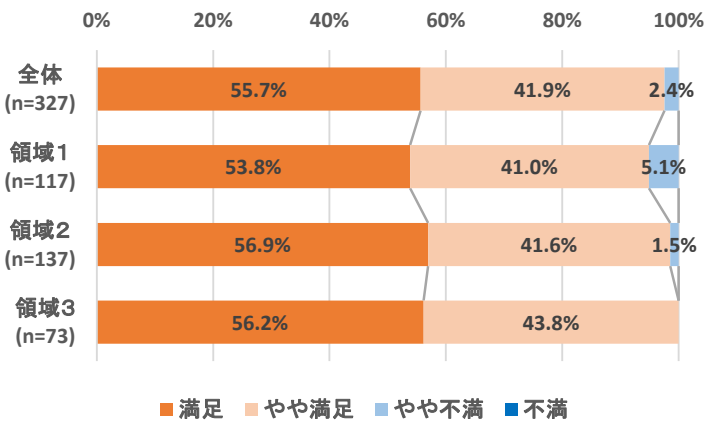
図表 1　自殺対策推進レアールの開催とアンケート実施

領域名		開催日	参加者	アンケート	
				回答者	回答率
全体（領域1～3の合計。延べ）		―	650	327	50.3%
領域 1	子ども・若者に対する自殺対策	2024年9月20日	260	117	45.0%
領域 2	自殺ハイリスク群の実態分析とアプローチ	2024年9月2日	240	137	57.1%
領域 3	ビッグデータ・AI等を活用した自殺対策	2024年9月11日	150	73	48.7%

注：自殺対策推進レアールの開催レポートはこちら

2．自殺対策推進レアールの満足度（図表 2）

図表 2　レアール参加満足度（%）



自殺対策推進レアールの満足度について、全体（領域 1～3 の延べ）では、「満足」と回答した割合が最も多く(55.7%)、次に「やや満足」が多い結果となった(41.9%)。「やや不満」はわずかで(2.4%)、「不満」という回答はなかった。この傾向はどの領域も同じであった。

「やや満足」「満足」を合わせると、全体（領域 1～3 の延べ）で、97.6%となった。これを領域別でみると、領域 1:94.9%、領域 2:98.5%、領域 3：100.0%となり、各領域とも好評な回答となった（図表 2）。

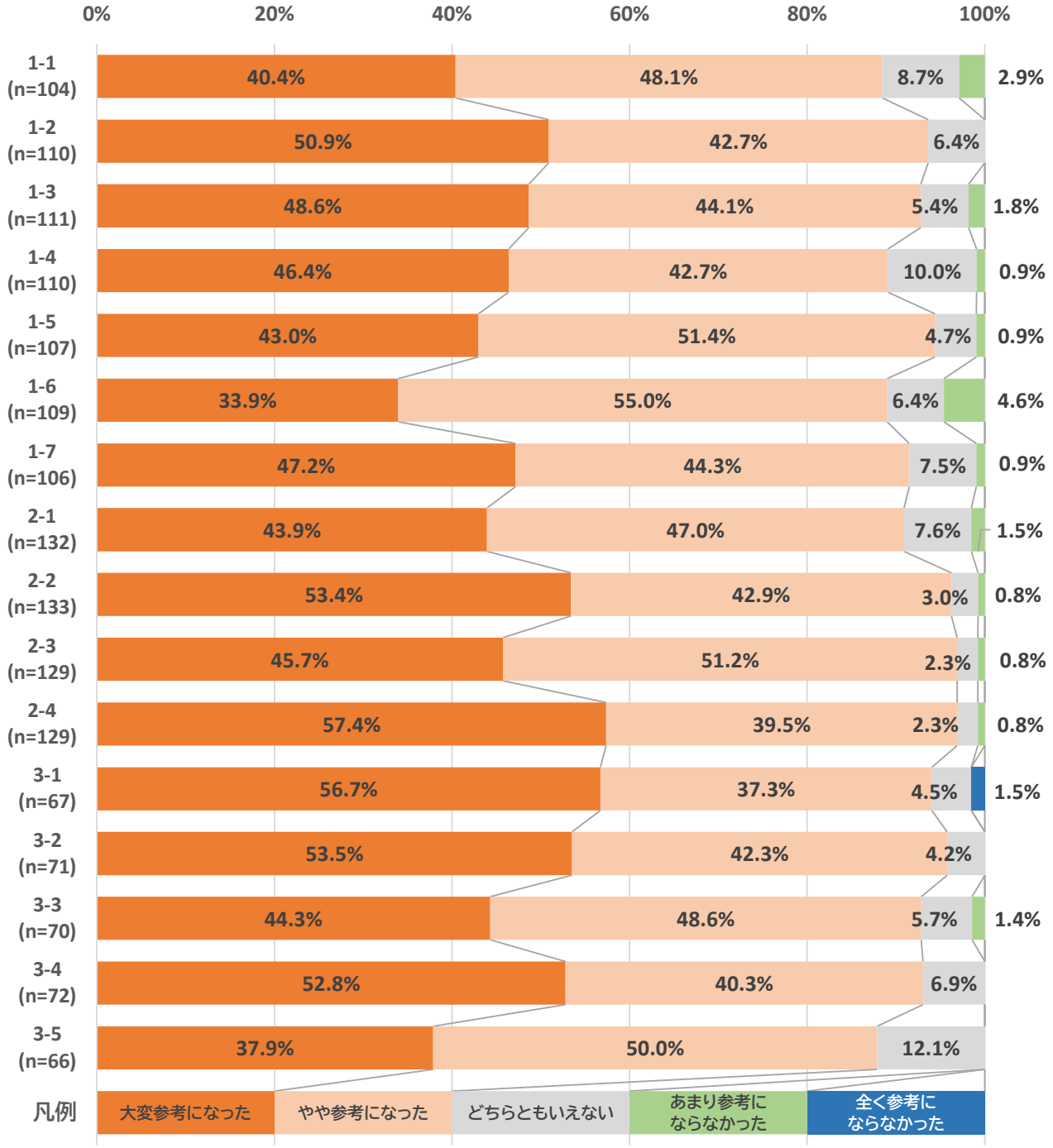
満足度の理由について自由記述の回答を見ると、「満足である」「やや満足」の回答者からは、最新の知識や考え方を得られたことや、実用的な内容であるという評価（「机上の空論ではない、実用化が可能な対策例」）、理解しやすい説明（「丁寧な説明でわかりやすかった」）などの意見が寄せられた。

「やや不満」の回答者からは、技術的な不具合や視聴方法に対する意見や（「画面が真っ黒でスライドが見られなかった」「オンデマンド配信でゆっくり話を聞きたかった」）、内容が難しすぎて理解できなかったという意見が見られ、技術的な安定性や専門用語の使用・内容の難易度などは今後の課題である。

３．課題別発表についての評価（図表 3、図表 4）

16 の研究課題別に、発表が参考になったか回答してもらったところ、参考になったという回答(「大変参考になった」「やや参考になった」)が 87.9%~96.7%にのぼり、どの課題も高い評価となった（図表 3）。

図表 3　課題別評価（割合、「発表を視聴していない」を除く）



注：研究課題名および研究代表者は、図表 4 を参照のこと

「大変参考になった」と回答した割合では、研究課題 2－4「DPC およびレセプトデータを用いた自殺企図者の医療機関受診状況の分析」が、57.4%と高評価で、自由記述においても、「企図者が救急病院から精神科の専門医に繋がる事が中々難しい現状もあり、そこの部分へのアプローチが重要になることが理解できた。」などの、DPC 及びレセプトの活用によるハイリスク者の把握や支援についての意見が複数寄せられた。この他、50%以上が「大変参考になった」と回答した研究課題として、課題 3－1(56.7%)、課題 3－2（53.5%)、課題 3－4（52.8%)、課題 2－2（53.4%)、課題 1－2（50.9%）がある。

４．自殺対策推進レアール全体に対する意見・感想

自殺対策推進レアール全体に対する意見では、研究で得られたデータやエビデンス等を実際に活用することについての意見が期待も含めて多くあった（「データの活用や分析は苦慮するところでもあったため、今回の研究報告はとても参考になった。」「ハイリスクの人に対し、背景にトラウマを抱えているとの見方や、こうと決めつけない見方など、今後の実践において参考になった。」「最新の研究などの内容もあったので、この事が直ぐに現場に活かされる内容なのかはわからない部分もあると思うが、実践現場に活かされる事を還元してもらえると良いと思う。」)。

また、自治体や医療機関など、異なる団体や分野との連携方法に関する意見（「ハイリスク者を、地域と医療が連携してサポートしていく方法をぜひご教授願う。」「子ども・若者に対する対策を推進するためには、教育関係者との地域保健分野との連携が推進されることが必要だと感じている。」）も目立ち、自殺対策のために異業種間での協力体制を築くことに関する関心が高いことがうかがえた。

図表４　令和５年度革新的自殺研究推進プログラム　委託研究課題・研究代表者一覧

領域１：子ども・若者に対する自殺対策		
1-1	オンライン不登校支援事業が子どもの学校復帰に及ぼす効果に関する研究	池田　利基
1-2	SOSの出し方教育における地域連携モデルの開発	江畑　慎吾
1-3	児童生徒の自殺リスク予測アルゴリズムの解明：自殺リスク評価ツール（RAMPS）を活用した全国小中高等学校での大規模実証研究によって	北川　裕子
1-4	全小児科医を対象とした大規模調査：「小児科による自殺防止セーフティネット」構築へ向けた課題整理と政策提言に関する研究	呉　宗憲
1-5	子どもの抑うつに対する遠隔メンタルヘルスケアの社会実装と早期受療システム整備-KOKOROBOと子どもの精神疾患レジストリ連携-	佐々木　剛
1-6	大学生および妊産婦の社会的孤立・孤独に注目したAYA世代の自殺対策プログラムの開発	藤原　武男
1-7	学校において教職員がゲートキーパーとして機能するためには何が必要か？―チーム学校によるマルチレベルな自殺予防体制の支援・組織モデルの構築―	目久田　純一
領域２：自殺ハイリスク群の実態分析とアプローチ		
2-1	トラウマを有する者における自殺行動の予測と予防に向けた認知機能・認知バイアスの検討	金　吉晴
2-2	非行を有するハイリスクな青少年の自殺・自傷行為の理解・予防・対応策に関する包括的な検討	高橋　哲
2-3	がん患者の自殺に関する全国実態分析とがん診療病院自殺対策プログラムの検討	藤森　麻衣子
2-4	DPCおよびレセプトデータを用いた自殺企図者の医療機関受診状況の分析	松田　晋哉
領域３：ビッグデータ・AI等を活用した自殺対策		
3-1	視覚情報のAI分析を活用したメンタルヘルスDXプロジェクト	奥山　純子
3-2	IoT活用による子どもの援助希求行動の促進に関する研究	久保　順也
3-3	ポストコロナの自殺対策に資する統計等のミクロデータ利活用推進に関する研究	椿　広計
3-4	過量服薬のゲートキーパーの養成を目指したビッグデータ解析と新規養成システムの構築：地域の薬局を「気付き」と「傾聴」の拠点とした過量服薬の防止	永島　一輝
3-5	兵庫県における医療ビッグデータと法医学データを組み合わせたコホートデータベースを用いたリアルワールドデータによる自殺リスクの検討	宮森　大輔

■アンケート結果問い合わせ先（メール）：　厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター革新的自殺研究推進プログラム事務局　irpsc@jscp.or.jp